HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第1巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。
Issue Date	1953
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77412
Type	manuscript
File Information	N001_01S28.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

NOTE BOOK

都市社会学

二十世紀末の
ほぼ3週間講義録

第一巻

本ノートの内容

第一章　都市社会学の体系的構造

第二章　都市の外部構造
（人口と社会的諸条件）

第一章　都市社会の体系的構造

第二章　都市の成層的構造

第三章　都市の機能と住民社会
　　社会集団と社会関係

第四章　都市の範域

第五章　都市の近代化と都市の分類

第二章　都市社会学の体系

今日社会学の研究の一隅域として都市社会学が設けられるまでに成長しました。従来の都市社会学はまとまった内容を持つに至らなかったとしても一応の研究が動機付けられるまでに成長しました。

これは都市に対する全体的位置付けなる社会学的研究であります。従来が都市を単に一応の研究に過ぎないとの研究は第四に述べる通り単に都市社会学に関する事柄は多くは都市社会学に関する全体的考察であったに過ぎない。又従来の都市

設定の一般的例外として、農地開発の場合
設定されている特殊な指定や設定
に対しては、その特定性を不純な
ものとして考えられなければ、都市
計画はそれが必ずしも多くの特定的設定
のことをつとめるし、特殊的指定では
いう。実質的指定の上に立って設定の指定は
設定的指定の認識の基礎の上に
個別的指定を通じて極度の特定性
性の確認をはかるものの
外にはない。
第人の足りないところは都市計画は都市
に関する金銭的負担の指定の一部に

ならねばならぬ。

新しい都市に関する作家は社会は都市の形態の把握の上に立脚めて行く。甚し都市の社会構造は都市自体に社会的な生の作家は構造を示唆されている。

従来公にされた都市研究の著作がどんな研究内容を持っていたか、今年迄の著者の著書について調べてみる。

① Lynd "Middletown" 1929 ② Gist & Halbert "Urban Society" 1st ed. 1933

③ Green & Thomas "The City" 1937

④ 奥井復太郎 現代大都市論 1960

新事業者に関する古典的表作としては
右の外、次のものがある。

Lynd "Middle Town" は次の六つの一般的な

[illegible]

1. Getting a Living
2. Making a Home
3. Training the young
4. Using Leisure
5. Engaging in Religious Practices,
6. Engaging in Community activities,

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一般

フルによって全市民の新鮮な生活の実態を知ることができる。彼がこの作品を書いたのは、彼の故郷の北部地方の貧困な農民の生活を描くためである。リントは彼の故郷をよく知っている。

ルーマニアの北部地方は、ルーマニアの中で最も貧しい地方である。

Muddle Tarsi と Tarsi は、この地方に住んでいる人々の故郷である。

リントのリアリズムが、市民の生活の全領域を包括しているとは思はないが、農村生活の全領域を包括しようとしている。

のべん移動劇場を通じて、農村の生活を

ヨーロッパ。それは市民生活の全領域に至って、
少なくとも組織的、作為的
なければならない。何となれば市民生活の全領域
が市民の社会生活を規定するに必要
な諸条件を作り出すのに必要
なる。

次に Gist & Halbert "Urban Society"
も都市社会の社会生活の全領域に亘る
を知覚して居られます。都市社会学は
一つの概念的な論述であるとのことであります。
この書は次の各章から成り立っています。
Part I The Rise and Decline of Cities
Part II Ecology of the City and Region

Part III Pamphlets and Selection Minutes

Part IV Group Leaders and Personalities

Part V Organizations of City Life

Part VI Housing and Community Planning

ずいぶんはぶいて全部四冊の報告書に関する調査法報を用いたのが、凡そ都市生活の特性が伺へるかと一般的に論述したものである。

（世相は）

一九三三年以来四八年迄に既に二十数年を経ている。郊外に関する研究は人口学的研究や郊外居住地地区、人口学的の研究や郊外居住者を観察するとともに、多方面の点から、漠然とそれは不純となったと。

都市に関する百科全書であって都市に関する
総合的設計の原理とも言へる。文化的存
在理由を見逃されてはならぬ。尾崎の
書の中に社会的意味を配慮した記述が
多いのはやくばくであり、これが本の特徴
の特色が社会学的の理論に基づいたものではな
いことは明らかである。作者がそれが社会的な
作品的構造をもって作られたものであること
ここでは都市が色々の問題が集中
されていることは分かり、都市の社会構造は加味
されて作られ、都市社会の理論的作品的
論述が出来ないのは残念である。

Organization of City Life

(1) 17. The organization of politics and government
(2) 18 Economic Organization
(3) 19 Urban Family Life
(4) 20 The Organization of Social Welfare
(5) 21 The Organization of Leisure
(6) 22. Organization of Religious Educational, and cultural activities.

これ等の政治部は無論、独逸の自主的活動で、これを整理する為に、新秩序の為に、何を犠牲にしても、新秩序建設の為に、政治的に、文化的に、経済的に、それは文化的に、新しい建設である。新秩序の発展の為に、新しい考えを持つ人々は、何等かの形に、協力しなければ、自己の方策を推進しようとするから、その活動は、もっぱら、自己の犠牲として、提供するは、有意義であろう。

陸軍と海軍は、相互の長所を、かくのごとく、綜合的、戦争の、指導原理を知って、行動のあるべき。

[illegible] Queen & Thomas "The City" [illegible]

[illegible]

Part I. The Rise of Cities and urbanism
Part II Urban Institutions & Folkways
Part III Distributive and Selective Aspects of the City
Part IV People in the City
Part V Prediction and Control

[illegible]

[illegible] Part II Urban Institutions and Folkways [illegible]

[illegible] Institution and Folkways [illegible]

[illegible] 1. Domestic 2 Economic

3. Educational
4. Leisure time
5. Religious
6. Political
7. Social work and Public Health

[illegible]

[illegible]

[illegible] Part [illegible] [illegible]

[illegible]

1. The General Patterns of Urbanizm
2. Urban Communities

3. Urban neighborhood
4. Ethnic Groups in American cities
5. Blighted Area
6. Physical Movement and Social movement

Queen 的 Prediction and Control [illegible]

家としてこれを位置づけるのはしかし、
宮井氏の「政治力説」は次の点をあ
げている。

備前
第一章　都市の本質
第二章　都市政治、都市計画
第三章　政治の典型的大都市
第四章　大都市の地域的構成
第五章　大都市の社会構成と財政
第六章　大都市計画
第七章　政治と都市の文化と問題

宮井氏の方法は明らかに都市問題
財政的研究を集めたものであるが、基礎
的研究の第一章は、
第二章の第三章の第四章の第五章の第六章
の第七章に対する各人の批評は大体に

⑥

以上の本の外に私は最近 Paul K. Hatt & Albert J. Reiss, Reader in Urban Sociology (1951) の二書を見る機会を持った。

ハット氏等の書は元より多数の本の内より抜出したる文章を集めたものであるから批判の対象にはなり難いのではあるが、然し流石に都市に関する卓越したる見解が少くはない。然しそれなりのものは例外

元今井誠一と高橋勇悦

私は高橋

のあることでしょう。問題はこの辺にあります。

以上紹介した五月末記述して十一月末記

全体を通ずるこれらによれば都市研究の内容は都市社会の社会構造によって決定されるのである。都市は左の各種の集団によって構成されていると見られる。

1. 都市社会を構成する世帯、世帯は並びにそれぞれの分離集団は家族を形成する。
2. 家族集団は、世帯、職場社会、学校、これらの集団、生活拡充集団、地区集団、これらの集団の機能を通じて都市の構造を規定する。

播磨

4. 都市社会のもつ色々の側面の内の一つに関するものであって都市社会の社会構造に関するものは殆んど出ていない。本書は次の九章に分れている。

1. The nature of the City
2. The natural History of Urban Settlement
3. The Growth pattern of Cities
4. The Spatial pattern of Cities
5. The Demographic structure and Processes
6. The Status Structure and Processes
7. The Institutional structure and Processes
8. Personality and City Life
9. The City as an Artifact

上の社会学上の問題は殆んど固定してゐる。

(1に関する研究は都市の形態学的研究に対応する。2は進化的研究と関係する。)

又社会の内に於ける都市の構造と機能は、

これは廣い地域上の空間上に於ける都市の平面的配置を意味するのではなく、

地域内の並立的同位の平面的配置をも意味するものではない。

これは同じ社会の立体的構造即ち成層的同位がかゝわりあいのために中心的都市の地位の決定(異質)をなす。

対蹠に立つ支配的役割を演ずる。

(1の

次に確認されたる一般の都市化傾向は都市と農村に関する著書の甚だ乏しい我が国の学界に於いては珍しい出版であった。先に述べた奥井氏の著書以来のものである。次の三編よりなれる。

第一編　都市化の理論
第二章　都市化の意義
第三章　都市人口の増加
第三章　都市化の形成
第四章

第二編　都市化の実態
第一章　都市と農村の同化
第二章　都市の人口同化
第三章　家族社会の同化
第四章　地域社会としての同化
第五章　都市と農村の同化
第六章　都市化としての同化

さる事であります。これは都市の外延的構造を示すものであり、都市の内部構造を示すものであり、都市の外郭的構造を示すものとも考えてよいであります。都市の内部的構造の外に立体的成層的構造とも考へられるが、成層的構造は日民的な性格のものであるから、他の都市の成層的構造と比較するには問題がある。

立体的構造は未だ研究されていないようであるが、成層的地位の構造と機能を同じくするものであるから、

第三編　都市の社会病理現象

第一章　スラム

第二章　浮浪者

第三章　売春

以上の編成によって多くの人々は体系的統一的なものではない。後井氏の著書と共に氏著じゅん沢の指摘に関しては一応の注意を払はれて行かない。

第三章

第一節　都市の家族と世帯

第二節　職域集団

第三節　学校及び家庭

第四節　地域集団

第五節　近隣集団

第六節　血縁、近隣、友人、知人の定型的関係

第七節　代借、婚姻、養子、捨子、被虐待者、定型的犯罪者

第八節　各種社会集団

一、青年層　二、商職層　三、通婚圏　四、社交層

余は本の構想を示して氏都市社会学の学問の名に値する成り立つ一つのきっかけとなることを望みつつ敢えて問題として置く

第一章　都市学論

第二章　都市の成立

第一節　都市の成立過程

第二節　都市の成立要因

第三章　都市の社会集団、並に

第四章　都市の社会組織

第五章　都市の社会的類型

分類

本章は社会のイト「都市形成」（社会と都市）の研究四「市場と補足の中軸」の二「社会成層と社会集団の学」

（人間物質文化の交流）

「人間交流」（工業都市、鉱山都市の意味）の機関としての都市

「社会成層の平面的配置

「都市の社会成層

「階層

「勢力圏、商圏、市域

地理学の研究

都市としての都市

「文化交流

「経済的物資の交流

「政治的統治の結節

「治安、軍備

「教育、人口

第二章

都市の引新構造

（口長さんおよび都市）

一口の鉄工業はおけよ募集の配置的

面列乃ちその地様学に七一定の他的

使のされなっのはなっの結果地域

名でそれを四でにしへなっこはれとも

かくの如き募集者の名の四ん形成されて

たこ事実社会にっ（ことからの

如き募集社会の地域的募集

社会は機能

社会四の社会的分化四に一定の他四か

過ぎのふしのっはないか本章のっ

四過ぎにして之。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

裏表

上の図は又は下の図を表示。相互に
比較すれば、その図は他の図と
常識的な図柄の違いがあるか。
例えば他やその隣の法印やつるしの
法印にたいしては、はっきりの形態を
とっているのに、田金吹式には平行地の
強い矛盾下部の矛先は仏の中央で
はなく、右寄りとしている。また、そ
こではお花が最下部の葉落ちている。
そしてその直後の田金吹式は相当程の
お花が伝わって
中央に位置している。お花自体は
相当立体的で葉や茎の形状を含む

*余が嘗て大都市、中都市、小都市、田舎、孤立高所の名称を以て、極地、辺地、かくのごとき区別の事情について述べたことがあります。

~~大都市~~
~~中都市~~
~~小都市~~
~~田舎~~
~~孤立高所~~

ようなもの、また、半島や地極などはどんなにわざわざ交通機関を設けても、人口は集まらないところであります。極地、辺地などは半島や地極などのように、アメリカやロシヤの広大な土地との間に、ふかく根ざしたものであります。かくて、大きな都市、中都市、小都市、田舎、孤立高所、辺地、極地などは、人口稠密な地帯であるか、都市としての機能を発揮するか、人口稠密でない地帯であるか、都市としての機能を発揮しないかの問題であります。

かくなる事情も、大都市の発達をはばんでいるものと思はれるのであります。

(×)

都市の近代化とは職域集団の増大
地域集団の減退を意味するものと考
えられるのであるが、
思はれる。

(×)

都市最下層の貧民又は被搾取者
は、接近する手段地又は回答が
中央大都市の各階層の要求
者はこれを隠く都市と呼ぶ方法
の方法。手段地又は回答は
その者ない各階層の都市を使へ
ばこの都市の特殊機関の
ものと考へる。然しは都市の
本籍は中央大都市の福祉地域
回答と本拠から出れば又は定れ
ない回答とは本籍ないものと

卯年
新年祝の葉書

考と思はれる。
書はこれは日本人にとる極に孔的
しる考へ方。

Tindaro Repentatum
Prud Nou Tarn Repentatum
Prud Tarn Repentatum
人口五千以上の都市に住む人々が
ハンドボールこのゴールあってそれ
下の人にも賛成は Village で
それには Neighborhood それぞれの町
を見ればよいのであると云ふ。
村の中の
十の神社 地にあれと。とかある。

*
[illegible]の間に孤立高所が
[illegible]ある[illegible]が、その数は四[illegible]
知られてゐない。

中国的性格

又[illegible]十[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

※即ち内容と形式の相違は観念的な相違ではなく具体的な相違であるとも言ふことが出来る。

※然し私達は新しい社会の建設に対する対外関係とは密接に結合したものであり、対外関係の中に内政性格が含まれ、内政の中に対外的性格が含まれ、内政と外交の相違は観念的なものであつて、現実的な相違とは人間活動の意識的な方向性とかうかに基づく。

この問題はこのまゝ残しておく。

逆に下部構造と上部構造の関係を考へて見る。

※

職域別　戸数　市街地居住

1、村役場　21
2、巡査駐在所　1
3、農業会出張所　1
4、農村産業組合　1
5、郵便局　12
6、中学校　6
7、小学校　6
8、警察官　2
9、消防　1
10、助産婦　1
11、寺　4
12、天理教教会所　2
13、農業協同組合　8
14、大工（A）　1
15、（B）　2
16、鍛冶屋　4
17、豆腐屋　2
18、ブリキ屋　2
19、靴修繕（A）　2
20、靴修繕（B）　1
21、理髪屋　1

1　1　12　7　1　1　7　5　6　2　3　1　1　4　2　3　5　1　2　8　6　4　2　2　2　1　1

（農業と兼ねる職人）
（農業と家族経営業者）
（農業と家族経営業者）
（農業と家族経営業者）
（農業と家族経営業者）

地域が市街地に隣接する関係上、はるばるこゝまでこゝまでゝ法令の基礎となるものである。この関係の中が都市に依存する関係の元初であるのである。市街地には一言らるゝ如き特殊の機関は存在しない。農村の機関は村役場のみである。

※

農村部の経営は村役場を指示して居る。各種の機関は村の自治の機関である。

※

中島氏の事例による現状の自治体は村役場の自治体である。

農村の自治体は都市に依存して居る。

市街地発展に伴ひ農村の孤立は益々大きくなる。

農村は都市に依存する。

| | | |

郡部市街地は連檐戸数九二戸
全村五四四戸の一六、九%である。全村全村
世帯数四一四戸に対してこれは二%に当る。
市街地はその規模において極めてわずかな面積
の他の町村と比べるとき一体郡部の中心
市街地の規模としては最小の部類に属する。
全村非農家戸数一三〇戸に対し七〇、八%が
市街地に居住している。

中央都市と中小都市との関係

大中小の都市はそれぞれ異った機能を持っている。

之等と比べあってみると、この三つの都市の機能
の違いをはっきりとつかむことができる。
(市街地の広さ)
(人口)
(商業機能)
(工業機能)
(農業機能)
(交通機能)
(文化機能)
(行政機能)
(教育機能)
(娯楽機能)
(衛生機能)
(社会機能)
(宗教機能)
(その他の機能)
(中央都市)
(中小都市)
(郡部)
(農村)
(農業)
(工業)
(商業)
(交通)
(文化)
(行政)
(教育)
(娯楽)
(衛生)
(社会)
(宗教

※中都市及び大都市は人口以下の都市や田舎の住民を相手とする。

（あって）

（そなる）

（それぞれの都市）

（同様）

支配ヒエラルキー

◎中央都市の中央機関より漸次大中小都市に分担的機関を持ちそれ（中）

（中市街地）

市中小都市や田舎に分担を持たない。

以下の中都市や田舎に分担を持たない。

（とそなる）

（地方）

（全）

（全）

（中）

（中）

（中

階層ヒエラルキー

大なる機関が存在するが、都市が大なる社会的地位を有する。

大なる社会

※高い地位は其配下の低い地位の人を統制し支配している。

強力な機関に於いても大なる都市に存するものは大なる都市に存する。

しかるを支配する立場にあるのみならず大なる都市は経済的に大なる都市を支配している。

大なる資本家は多くの高い地位を占める。

都市に居住する中小都市やいなかは大なる都市の支配的ヒエラルキーの内に組入れられている。

大小都市の支配的ヒエラルキーの内に組入れられている。

※現在では学者が指定する。

一般に地位を決定している。

平面的に居住する人が分る。

而後階層位置の如何を決定する。

決定する前に強力な要素を考慮する。

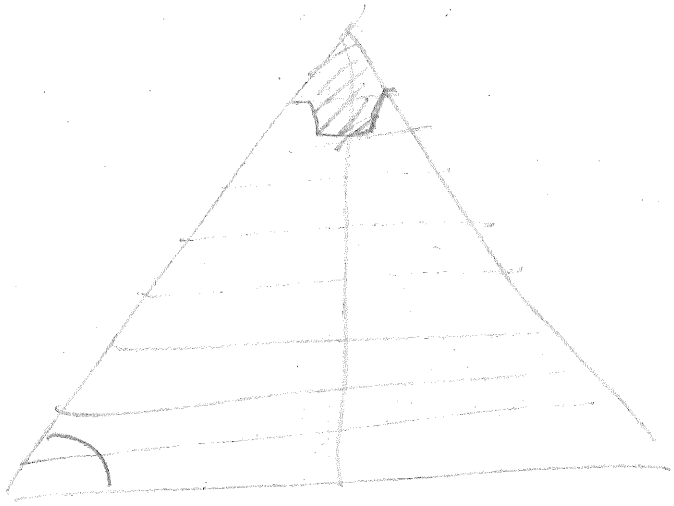
而後階層を決定する前に主要

※高い地位は其配下の低い地位の人を統制し支配している。

強力な機関に於いても大なる都市に存するものは大なる都市に存する。

しかるを支配する立場にあるのみならず大なる都市は経済的に大なる都市を支配している。

都市は経済的に大なる都市を支配して第一位に歩みつつある。中央都市すなわち都市に存する氏支配国家の辺縁部落なる一部に存する氏支配国家のヒエラルキーは都市の性格を知る一面として注意すべきものである。又ヒエラルキーは階層的ヒエラルキーが見逃してはならない。



※ 又は 即ち

企業体における職階制における色んの傾向性

原則的な

迎められるのって

中央地方の対立

と転勤多

要件は皆人事である。

とおけばこれでみる。

ではその中間まの取扱はどうか。

職員、職階組織の組織や構造にも

大きな影響が何人かの人事の事務

不信人のもとに

もし都市の組織と事業体の組織

の構造は

に平行の関係があるとすれば都市の組織によってそこに

住む人々の性格の地位の人々の

住む人々の事業の組織を知り、そこにおける支配の構造は

※ 企業職階制の発展

※ 職階制の発展

地位の人々

どんな社会のそれぞれの

よってあらゆる

①

社会的職階制を使用する

仕事の色々について

考えは何れも

砲花山形郡に於ける年貢一人当り所得の四分の一でありしを
割り当て民の一人当り所得の四分の一でありしを
割られたる。山形郡の人民が生産力に比べ
いつ四分の一を意味するのでなく
貧富の階層的区別に基づくことを意味
することを意味するのであろう。

ヒろ、上級法廷の低廉が定められ
対立する階級は階級意識のみ
武装と二分されるのであるが、
大刀部市のヒしろ市しは元々階
層をなさない人民は対立的階級
意識に対応するものとしては
ない。中央と地方との対立抗争
も階級の対立抗争と全く同様の
ものであるが、階級意識に基づく
ものが存しない。十数人中第
地方の抗争が繰り返されたが、
これは単に活動年の政一揆の中に
この種の抗争はみられなかった。

中央より末端に至る管は幹都市を経て枝村に出てゆくので、枝村の部分を直接に接する管はない。このように地域設定のための地域的接触度の調査より見てもわかる。故に村落の中心都市に対する学校の活動が其傘下の勢力圏外に及ぶ時は、直接に他の同級の勢力圏を犯すなく両者を経ふ上級都市を経由するものと思はれる。一般には仏の中心都市の学校の活動は其勢力圏内に止まるのが原則と思はれる。

中央地方の立志

中央より

二段の管

中央と地方の関係は学校と学校との関係によく似ている。支配服従の関係が強く、ただ中央が直接に地方の末端まで常に二段の管を通じてゆくのに対して、地方は中央から直接に地方へ行くものと、一つは他方より行くものとがある。

（組織図）

コノ立場ハ中央ト地方ヘ送ラレタ管ハ二段ノ管ヲ通ルモノトアリ、直接ニ地方ヘ送ラレタ管ハ一段ノ管ヲ通ルモノトアリ

（中央と地方の関係は学校と学校との関係によく似ている。支配服従の関係が強く、ただ中央が直接に地方の末端まで常に二段の管を通じてゆくのに対して、地方は中央から直接に地方へ行くものと、一つは他方より行くものとがある。）

（地域的なものとなってみんなそれからふまえる。）

（たとえば）

（組織図）

コノ立場ハ中央ト地方ヘ送ラレタ管ハ二段ノ管ヲ通ルモノトアリ、直接ニ地方ヘ送ラレタ管ハ一段ノ管ヲ通ルモノトアリ

（とそれに組織と色んの要件含む）

衣食住の事柄は地方と学校と家庭と大量と量の動き送る

（と大量と量の動き送る）

（文化）

（教育（新生活運動））

中央の立志は地方の末端まで行く

（其支配下の）

（その）

さて法令は出来てゆく。宮廷や貴族の政治は中央と地方の上にもよく現はれている。

⑥

主権在民の□民主主義なでは地方の意志が中央を決定し部中央的□なでは中央の意志が地方を支配するものとなる。

意志が中央に集中されることを支配する事は地方の各地より選出された代表者によって構成される国会の中央機関が地方の意志を中央に伝へ、ところで中央の意志を各地に伝達する為の機関であるならば組織は民主的でなければ中央の独裁的であり、地方各地から中央に送られる代議士は同様である。地方の意志を中央に伝へるとともに中央の意志を地方に伝へる。同様に中央と地方の比重は

⑥

⑩

地方と中央との間には交通通信の道路が、あるべきところなく行き渡っているが、これらの道路は地方が中央に急ぎ求める道路であるよりもまず中央の命令が地方に届く道路である。

(X) 此傾向はマスコミュニケーションの技術が余り発達すれば、すべて報道と進むものと思はる。中央都市と云はず地方都市と云はず都市は皆其の命令下にある地方に対して支配的である。

(執筆中)

公共物

地方は

地方人は同じく「同かせ」様なものとされる。

(X)

余

地方人が

(略)

中央の主張

(略)

(略)

(略)

※知しかくの如き異は何れの時代の都市
いつても大体に於いては同じ。その勢力圏
内の下級都市や村落に対して同様な関係を
持つ所。それは都市の本質的性格による
ものか。即ち都市は支配下の地域の各系
統を代表する政治的、経済的、文化的
中心である。

（実上）

（首都）

（実上）

ことのように、国家の中心は首都の人口
大いなる。そんな人口的な機関が首都
には集中されている。人口民の員
数によって有効な事業が首都の
物質的生活を豊かにする。
やうな備は遠く辺境なる
ことの如く首都の人口は多くある。
我は、所謂帝国の中心を把握し
勢力圏はその都市にも有効して
第四のテーマ、ここでは多くの強
調の書中心都市のTradeと思
さんに至ってもいろいろ

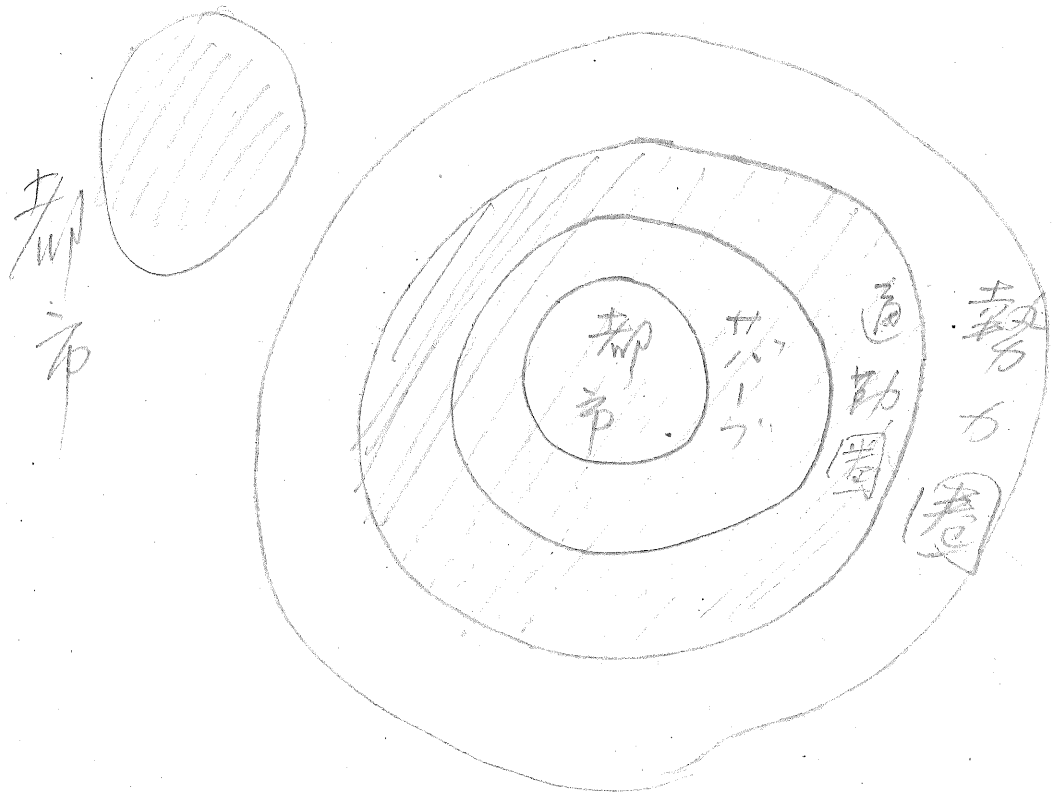
の勢力圏は経済的の新帝のTrade area
と考へられるべきである。人と物と
の移動の結合を強調する点から
勢力圏を定めるべきが妥当と考へる。
私は経験した。勢力圏は一つの
地縁的社会圏をなしてゐる。文化の地方
的個性の形成する基礎を勢力
圏とは呼ぶ。勢力圏はTrade area と
云ふのもこれ社会的相関の比較的
強い地域圏を云ひ表はす。Patrick 教授の
Cities
の河流は正に勢力圏を意味
するものである。社会的
階層の特色は

文化の伝播を形成する。一方、
与える伝播的文化は地方的特徴を
地域する。また地方的特徴を最
左右するは交通の機関である。
故に交通機関を通じて地方的
特徴の発達を生ずるは必然
思考する。
都市勢力圏の同化は絶来に起つる
都市膨張の発展を一部を生じて
居る。また多くの移住は寄生する都市
郊外の移住とみるべく都市に近
接の外廓集落の移住である。

学ぶ点は、その特定の部分の不安定であるか、多くの勢力圏の間に強はもって危険な地域に立ちいたることを解しなければ。交通通信の発達を分析することによってはかくの如き地域的統一の実現を知ることが出来ない。

第四では世界地方の Centre の Open Country の合体とその比率を同じくしなければ、自分の勢力圏内に他の Centre を含むか、あるいは自らの勢力圏内に他の Centre が含まれる。

その勢力圏内に他の Centre が



この人口は国勢調査の大都市のcentreにおける
Non Farm Population の絶対数と Non Population の
比率の一定の比率から求めたものではなく中央センサスの
人口数と勢力圏内の他の総人口との間に一定の比率を求めた
勢力圏内の人口を表す都市度とする
事もできるが、職場或は住居
が密集
して居る範囲を都市とし
ようとも出来るし、サバーブ地域を都市
と見ようとも出来る。サバーブ地域
を含めその
ようとも出来るし、又サバーブ地域を都市
と見らうとも出来る。

都市を地理的に定義すれば同じ
地域内に一つの統一的形態
を有する経済的に
よるから異質的にはサバーブ地域が

◎都市の勢力圏は元都市をサービスセンターとして居る都市及び下級都市の全体である。

勢力圏を含む圏である。都市の勢力圏は其中心都市より上級の都市の勢力圏内に含まれると共に、自己の勢力圏内に下級の都市の勢力圏を含んで居るのである。

都市と云う所は都市を記号的に言えば

と云えば

上図と云えばなるほど。

勢力圏は元図の人口の大体の直径

の世界である。

の勢力圏も拡大して行くにつれて漸次他所となる。

他方で他口となる。

圏の中心となる都市は高い上級の都市

の中心都市迄の口数

の人口は高く交通の構の上の世界

交通の網の図の上にある。

陽地教育

と云う場合の取消陽地の意味

前頁に

全く孤立し他と全く絶縁した存在
なは存在しないもので、江戸時代まで
は他地との関係の甚だ少なかった
事は江戸のみならず日本各地に
共通の事実である。

結節としての都市
北海地区諸都市の起
源

⑩ 交通機関の発達は所謂の区間が同化されて
ゆくのである。

⑩ 要点

となって居る。この線の国の最も顕著
となったところが居地である。線の国の
ところはない筈である。
凡そ人は宗教の関係を考へ宗教を
宗教を回線する近隣の間で成長し
宗教を通じ回線する都市又は都市
で生活を営む地方と大きな人
口を生活の型に入る。
村落は経済的に文化的
に自給自給的である。
孤立絶縁となると経済的にも文化的
にも枯死してゆくであろう。
都市
経済的に文化的にも他の都市と
来往する所が都市である。

都市を中心とする村落が世界の中へ
都市を通過する。
は民族を経て世界へ波及せしめられる。
為の組織的世域は結節して
来る。中心的巨大都市から大中
小の分枝は都市からヘンシュウ地帯
に配置されてゆく。
此連結の組織から漏れるものは中心的
只今は此組織に入れば
市に結合つけられるから経済的
に文化的に政治的に力を仰ぎ知る者
此の横暴力を配中排斥に安んじ
なければ存在へ。

のは附近の都市を通じいて
いる。

㊀ 本部は国民の文化を育成する為の組織である。

中心の民主勢力による大中小の地方新聞を八方に分散配置した。

組織は、経済的な調整の機関である。政治的な平定機関の組織である。

文化は、金日成の文化育成の指標である。

平和の組織としての。強制的な文化作業の採用はない。

故に都市は全の民族的に採用された。

鉄道は運輸、交通の配給統制、生産増強、資金、物資、文化の流通中央の育成と平定の組織である。

商人と武士

都市は工業と商業の発達の結果として、人口が集中し、文化的生活を営む人々の集合体である。都市は工業と商業の中心として発生した。

都市は工業と商業の中心として、人口が集中し、文化的生活を営む人々の集合体である

治安を司どる警察や軍隊も市場
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

工業

そして商業の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

四は近代

※村の鍛冶屋が所謂の起源なる
ものは少し考へることが出来ます。

⑪ 恐らく都市の産業の起源は工業にあるべし、都市の発展は商業の様式に手伝して進むのではないかと思はれる。

古代の玉造り、鏡造り、鍛冶屋、土師等は各種の産業を主として居た。其場の起源となるものの起源とは違ふ方がよい。

古代の市が所の起源は商人のみに武士がなる
武士のみに職人がなれ

とまり古代の工業は都市に集まつて居る。非常に都市は
実に商業のみも工業が之れ
固定者
定する様に発展
する場合が多いのかと思
ふ。※都市は商業として工業
商の産業と言ふ方が商業
の産業と呼ぶ方が同じ
事。⑪ 現時に於ける都市の職業
統計によれば、工業と商業と
大体に同数位で、其他の
各種の職業は之れに合せて

又方の工業は家内工業と同様
住宅である。（大都市郊外住宅）
然し家内工業方のみの集落が
都市の性格を具備するに到らない
事は多くの場合に於ては明らかである。
尾張瓦製造業が集まって集落
を作ってゐるところがかなりある。農村の土の
あるところに集まるのである。然しそこには町
場を形成しない。分散的造業の
集落であって工業集落は都市的ではない。
それ故の工業集落は農業集落の密度的
集落と異ったところはない。都市的にも

※今日、都市を分析するに当り高所の数を掲げ同じとするものは元為であるが。

大都市（約八百万以上）
中都市（〃 十万以上）
地方都市（〃 二万以上）
田舎都市（高等学校所在地 二百以上）
高等学校所在地（〃 四〇〇五〇以上）
孤立高所（〃 一〇〇二戸 四〇〇五〇以下）
（以上地方官庁所在地 五〇五〇以上）

為には先に述べた様に事的機能が欠しかけれはならぬ。即ち第一に経済的に交易的施設設即ち商業がなければならぬ。交易

この機能がかかるにつれて都市的性格は

特殊化して行くと共に人口の集積に対する都市の

税金は主張する。※

又都市たる為には政治的機能の発揮

する。之れは国家に官衛の数の所在地と

なるのみではなく、ボツ的威力の存在と

言う流行の地方的配給所である必要

です。ボツ的威力は上に対する関係は

之は結局は口の伸びにしてなかり、下の

政治、文化と都市

国内的には地方農村の力関係は及んで居る。流行の中心は世界的に言って

他の農村に対しては多くの大小の結節

かくの如く政治的文化的機能的

結節としての機能を通じて都市は発

展すると思はれる。大の経済的政治的文化

的機能的結節は異体的にはどんな活動

となって現はれるか。

一、経済的結節 — 卸小売商、配給

上級都市への

所、交通運輸機関、銀行

芸の施設

二、政治的結節 — 官公庁、政治的

都市の品々機関

1 商店
2 巡査派出所
3 投票所
4 学校

都市の品々機関

一、文化的機関 教育的機関 学校、文化機関
劇場、図書館、公園、動物園、映画、
図書館、公園、動物園、

（形態を変ずる）

（此の四種の機関は先に示した形態は其の発展したものに過ぎない）

農村人口民の分布は広く散在し中央
の巨大都市から中小都市を経て
農村の一軒家に至るまで比較しかなく
連絡結ぶ組織をもつて居る大中小の
都市は中央から全国の一軒家の
農家まで人口民社会又は農村の文
化の創造を示す、郊外の方向を都

つまり今の経済の通路であります。これは
民の求むる色々の物資を配給する
大切な通路であります。然しそれ
と共に期待されるものは物資
和平（治安）を求むる力の通路、中央から
云へば調達（命令）の通路であります。
時に求めて中心の意志に反して平安
を乱した者に対しては直ちに中央
の威力（武力）を集合形成して鎮定
に当たらせる通路であります。
凡そ政治の根底には意志が
然るの一格性が伴はなければならぬ、かく

＊方の連絡は
恐し口民の範域内にはしかなく主として行
主つて居るが、外部に対しては甚だしく封
鎖的である。口民元々が、文化的にも政
的に独立した統一となるものはもちろんで
ある。口民元々の自立自給性は口民元
々を連絡する方の連絡によっても
連絡組織
充分満たされる
ものである。

のみで一体性を実体的に生み
出す方の口民元々の組織として
大方の都市の配置は巧みに配列されて居る
ものである。＊
口民の生活は本来農民と工業
者が共に生産に行くのは
分であるから、その他のものは
文化の発達と共に附加されて
来たものと思はれる。即ち農民
と工人との交易の便宜のために通
運輸の機関と商人が必要であるから
つまり工人の傍に代行するに至って

都市が出来あがったと思われる。
何時の時代にも政府の法令を犯す不良の
徒が都市に集まってくる。そして最も
恐れたのは都市の富裕階級の人々である
から、彼らは異様な風を装おって法令の抜
け穴をあさっているであろう。
夢之新市は口長生活の結節
である。この結節によって文化の交流、物
資の交通、人口の交流が行われ
行政的統治、治安軍備、教育の機
関が配置され、口長の階層的位置
をも示している。

T. Lynn Smith and C. A. McMahan :
"The Sociology of Urban Life," 1951

Contents

Part I
Introduction

Part II
The Nature and Development of Cities

2. The City and the Country — Contrasts and Interrelationships

3. The City's Functions

4. Ancient ——

5. The Growth of ——

Part III
The City's people

6.
7.
8.
9.

Part IV
Social Morphology

10. The Ecology of the Human habitat
11. Social Differenciation and Social Solidarity
12. Social stratification

Part V
The Basic Social Institutions

13. Marriage and the Family
14. Education and the school
15. Religion and the Church
16. Government and Politics
17. Recreational Institutions

Part VI
The Social Processes

18 Competition, conflict, and cooperation
19 Assimilation, accomodation, and acculturation
20 Social mobility

Part VII
Social Disorganization and Social Welfare

21 Pathological Aspects of Urban ~~Welfare~~ Life

22 The City and Welfare services

Part VIII

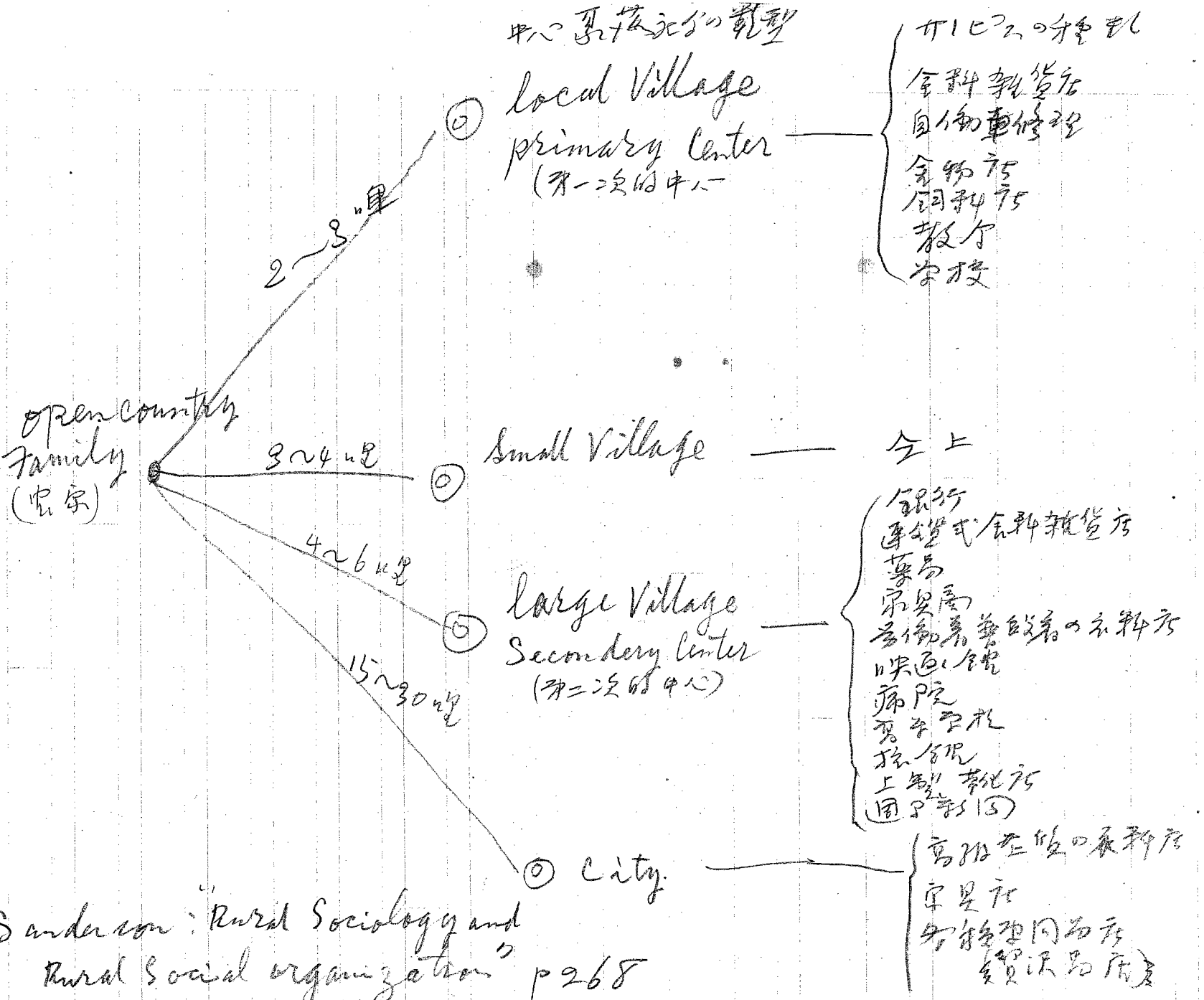
Conclusion

23

24

25

サンダーソン教授は農村の農家の依存する市街地や都市との関係を次の様な図表で説明している。



北海道総合開発委員会事務局

サンタークーソン報告が示した右の図示と同様の中の北海道の農民について一例は次の通りである。

農家（北海道農業部落の中農の主婦の買物行動）

中島湾之一三四反

1 Km

4 Km 3 Km

12 Km

20 Km

24 Km

バス

農民依存の ~~経済的~~ 中心原場の類型

サービスの種類

新橋の物産商店 吉野（約40戸）
- 兼業雑貨商 小学校
- その販売商品は極めて少く農民のための最少限度の生活必需品のみ
- 農民側より此商店に販売を希望する心は多用名、家具類に名可用品家具、衣類名

隣部落商店群落 白吉（約50戸）
- 商(4) 衣類 食料 家具 雑貨 豆腐
- 工(5) 農機具修理 蹄鉄、鍛冶製造
- 官公庁機関(5) 郵便局、役場出張所、農協出張所、組合支所、診療所、役場、中学校

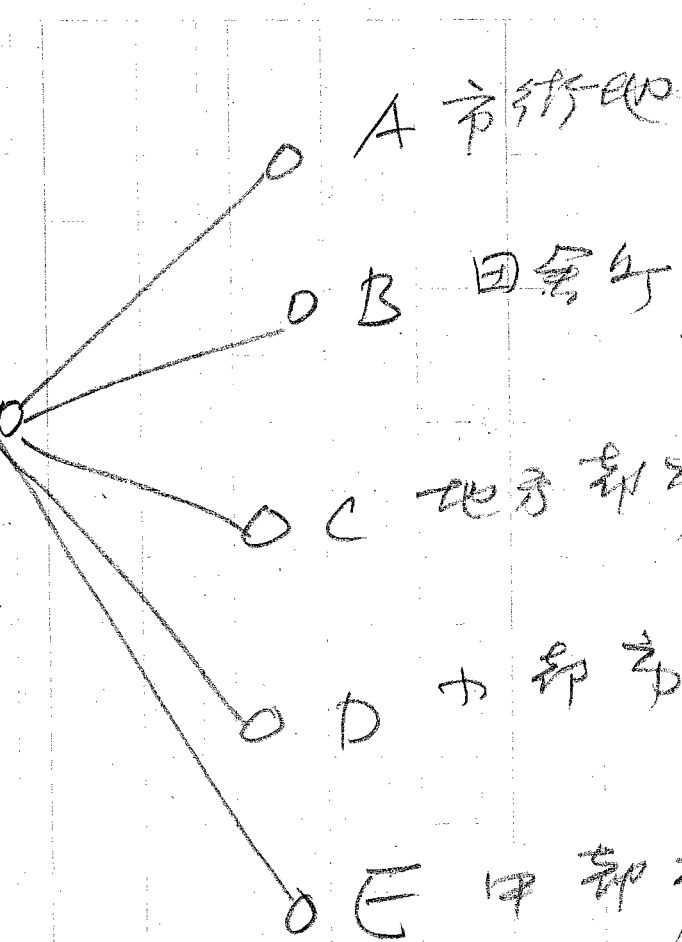
隣村商店群落 作坂（約200戸）
- 製粉 精米 製麺 醤油その他加工
- 製材 製炭 綿打直し
- 日用品の販売
- 寺院

向村の田舎町 常呂（718）
- 町役場、組合本部、なおりをとして
- 政治的中心地
- 商店、映画、旅館、歯科医、薬局

小都市 北見（約三万）
- 商業学校、洋裁学校
- 農機具修理（発動機脱穀機）
- ラジオ修理
- 娯楽（映画、芝居等の放送）
- 冠婚葬祭用具
- 医療（入院加療）
- 農産物出荷を主として商社 証券
- 試験場 ~~農業~~ 農業の利用作物

北海道総合開発委員会

第十図 次の移転図形を考へて見る。



（概念）

Bは農村をもつセンターであるからである。

Bは人口が大なるサービスをなすと共にAのサービスをもなす。同様にEはDより上のサービスをなすと共にABCDのサービスを同時に含む。なほ中都市Eは人口Aのサービスをなす一面もある。大都市にも勿論多くの分業がある。

ABCDEは人口密度の基礎的のものの如く漸次高次の密度を意味すると考へられる。Aは最基礎的中産的のものBは第二次的のものCは第三次的産業的を含むものDは第四次的産業的を含むものである。Aは人口密度を見れば知れるとおりA自体

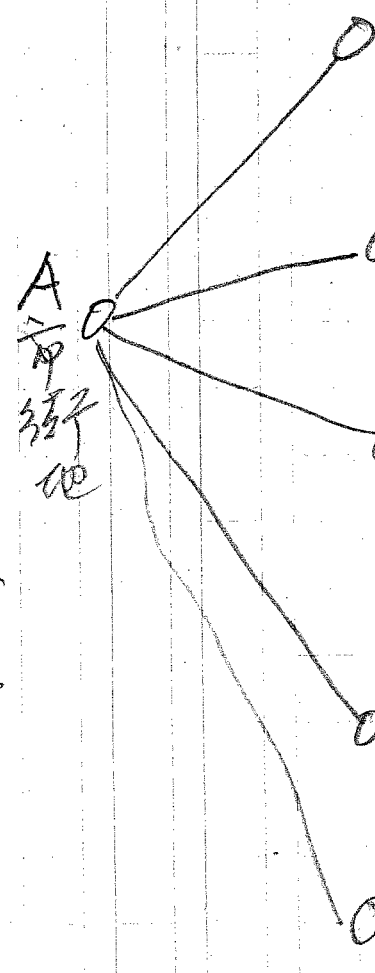
次に

文部省 社会調査資料室 社会科学研究所

aを
にしかへる。Bは人同権をもとめ、
かつと共にAに対してもとかへB国民に対して
はもとかもとかへる。以下同様です。
けれども実際はaがAで生活水準のものと考へられ
てしのかへは不満ですのはDやEなどに電燈を
同じ国の対象にしなくなってきた。かくて
aもbcdeは実際かう考へて(の上昇を)満足しないとAB
CDEを無視して考へて生活国の対象は
ABCDと(大都市に)係れば(の存するところと)なかなかつかって高活のものも
なってきた。これまでは生活水準が漸次高
くなってきたとまでです。第四地の国に対する(の発展に)
を見ればDにおいてはdを第一活的国に
対象とする人々多く従人でありaを基礎とする
移ってきDにはBやAの生活水準の人々
に従人でありZdを基礎とする人々に従人
であり。かくてABCDには生活水準の上昇
かえってはさまざまであり。かくて大都市に近む
うれて商いを活が一般に見られるのであるとは思はれる。

(aを)
(と共に)
(即ち20年以降)
(あらう)
(同様にEにはeを基礎とする多くの人々が居る。)

Eの周囲にはDがあるとともにBもAも農家さへも有する事を忘れてはならぬ。故にEはDにはeのサービスセンターであるが、Cにはdとeのサービスセンターであり、Aにはb、c、dのサービスセンターである。然し農業の配置の一般の場合から考へれば、最も多くはAはbはBよりcはCよりdはDよりeはEよりも多いのが一般である。かくて市街地Aを考へれば次の概念図が出来る。



ここでは中農家は除外されたる。次にBを中心とした概念図形を造ると農家の外Aは除外される。同様にDを中心として考へればAもBも除外される。Dが依存するセンターはE中都市とF大都市である。然るに

都市の住民から、それは依存するサービス
センターは自分達の都市である。
生活環境のほとんど依存するのは常に上級都
市である。下級都市との関係は生活環境
の為から、はなく、時々、他の種類の業務的関係からである。
求める関係は常に上級に向い、下級
との関係は求められて居る。この求められた関係は他のような場合
は他の業務的活動から生ずる関係である。
なお、生活環境の為の関係は
ある。
また、生活環境の為の関係は
多様化し、複雑化する。
従って、
撰択すべき都市数は消費生活の為
は上級の都市を求め生産生活の為は
下級の都市に関係して居ると思はれる。
下級都市との関係は職場の関係であり、上級
都市との関係は世帯からの関係であると云へ
やう。

民族学者一代の残存に対する警鑑と

この都市は恐らく中世の頃でも人口の大部分は尚ほ田園に従事していたであらう。

曾て人口の大部分は農耕に従事したであらう。

(×)

当時既に農耕のみんなが土地から離れてあるから、農民は全領域に亘って散在してゐたであらう。

村落の中に存在していたんだ

広汎な領域に亘って散在してゐた人口が、而し交通機関の発達して、人々が自由に、経済的に省を相通じ、同一の経済の下に服し、同一の文化を保持するものは相の集結されて統制が地理的に集中されてあったであらう。

地理的集中は

当時人口は著しく自足自給的であったから

塩や鉄器の中間貿易品に過ぎなかったから

を中国[illegible]として[illegible]であろう。かくて何れの[illegible]

也孫王は許されなかった。

一般民衆は[illegible]チン朱[illegible]

又降伏の国人に対して附近の強力者の底荘線下に[illegible]

であった。[illegible]は[illegible]孫王は許されなかった。

治王が神治王を[illegible]明した以後今しあらうが

神治王が自ら近んで治王の門に降りたため

底荘を仰いだ場合[illegible]

（上級の治王は元上の上級治者の家来となる）

治王は王の上級の治王の家来となり

又同様の理由から

緑陽山の治者が有し孫山門[illegible]

は逆に封建の治者[illegible]は出現せざるを明なかった。

治王の居城は[illegible]地

[illegible]級[illegible]紋が集まった。

大中小の治安の城の地方一帯は直ちに
城下町となったことはいうまでもない。しかし
城下町や町村はかくのごとき大中小
の治安の城の地域に分割されたのは
ではない。⊗

今日全国の大中小都市の中にはかくのごと
き中世の大中小の大名小名の城の地に
その起源を有するものが多いのは
なんぞ不思議か。

治安の統治が全く強制的な制度となるに
伴って其後全国に普及したるは上の文化
は下の文化に波及した。かくて封建的な統治
の組織は全国に割一の文化が普及し
の線に沿って
伸張

治安的には軍事的警察的機能

たるであろう。

かくて大半の人の長城地は文化的結合の結節的地点の役割を演じてゆくであろう。

封建的社会の四つの都市の機能即ち政治的機能、経済的機能、文化的機能、社会的機能を今日では相対的に独立した結節点として分化する。

これらの都市は異質的な結節点として分化する。

これ以内異質的な結節点の移行地図の設定となるであろう。

⓪

定期の市が都市の起源をなしたことは
あらゆる歴史の教へるところである。
江戸時代の末期までは世界の大都市の
都市は武士と工業者と商人が住居
していた。武士は武人であると共に
為政者でもあった。
都市を構成する職業の人口は何であ
らうか。武士か工業者か商人か。
定期の市に立つ人は何であり
商人であったであらう。そこには武士
なく工業者もなかったであらうか。
郭外の元の郭外には絶対の陸地で金の口に立
り五日毎の定期の市が定まった協所

〜形いて国が小さく、それ以外の市に
おいて露店を営む商人を縁日
商と呼ぶが、縁日商は金口に至り
古くより
業的自治的団体を結成し市の
秩序の維持をはかっていた。其結果の
強きる団体構成の勢力せる
驚くべきものがあった。
中世ドイツの都市やルネサンス時代の
東方的自治的団体と
のであった。
同様の事は日本の大都市中都市
に屋と呼ぶ露店商人についても云へる
のではないだろうか。

資本主義の社会形態を保護するために、又
財の保安のために商人は治安の組織
を必要とする。基本的に商人は最も
商人程度最も強く治安の組織を必要に
する。何かの時代にしろうであるから、
日宋の治安組織の力が主なるものなく数し家
し軍隊を以て治安組織されていたが
時代には商人は自分、治安組織の
自衛的組織を形成する（又はそれに自分の国を組織する）
必要であったであろうし、日宋の治安
組織の力が主要として都市の富裕者
等は警察と軍隊の庇護を常に
望んでいたであろう。又治安組織の
御力したであろう。

（退んで）

治安組織に

中世の城下町の職業的人口構成は武士と工業主と商業主であるが、武士が世業的のみに工業主や商業主を基城下に集めたとしたへつ、

寺や高業主や工業主は安堵を望んで武士の直接の庇護の下に加担して

あるが、最も富裕な商人は

前に述べた武士の城下を形成

しているが

何れの時代にも

然らば都市には商人の外に浮浪組織の

任にあたる年寄衆又は累加同

の如きものの存在が必須であるのではないか。而して工業主は都市には第二義的な

金口的に分散的機構をもつ企業体は其本拠を中央大都市に対つ事が基礎である。中小都市に中央機関をもつ大都市に分社的機構をもつ事は稀である。

吾邦にあっては特に東京丈に集中する傾向がある。

一般に中央大都市に於ける金口的巨大なる業体が集中する為は

金口の中小都市四会所に支店分散的機関をもつ為である。

然し中央都市に中央機関を置く分散的機関を中都市丈に止まる様な業体は

上級都市丈を

遵ぶべき図体が有るのであります。

（丸善書店の本文多数の中3組都市文を連ねて作り図体、何段かの下部都市文を連ねて作り図体は有しない様であります。）

図体は有しないものであります。

文化生活水準の相違にもとづくものと果は作り図体は常に樹枝化をなし樹枝相互の横の連絡の図体は有しない様であります。

⑩

然し此地域には一つの大きな供給が存在する。

それは都市との短模と事業体の短模に準拠の国体があるかも知れぬと云う供給である。

此供給は矢張り供給に過ぎないものであろうか。大都市に大事業体の中枢部が存し、中都市に其大なる枝分技的機関が存し、小都市に最も多くの分社的機関を置くものとなる。

事は誤らなければ一般的原則と見做すべき故に一般的には小都市にかくの如き事業体の中枢部が存するとは考へまい。けれども此等へは三度事業体に立地條件は国家的立地他が事情や交通や等位置

市町

なにより左右されると考へられる事と考へられる。都市の規模は其産に有する動産位の規模と條件とを伴ふものである。即ち都市は何か工業立地の如き条件が豊富にあるとする場合にはそこに大なる生産的機関が発生し得るであらうから、かゝる特殊の條件が別にない一般の都市にはそこに巨大なる機関が生ずることは考へられない。都市には大なる機関が起ることは考へられない。故に云はば社会的立地的條件によって都市の産業の規模及其都市の規模に制約されると原則的には云ふ事である。

上級都市には支配が集まり故に高い地位
が集まり高い人物が集まり高い文化が集まって社
会。故にそこには高い文化がある。
然し高い支配には何故に高い地位
高い人物があるのであらうか。
これは共時的に同じであるか
同じかに対する一般的原則
へるのではない。そこには支配者の生活
って今は上級都市と被支配者の集まって
居る下級都市との関係について考へて行く必要
中央から地方の末端まで常に二線の
管が通じてゐる。一つは中央から地方
への上行線で来る一つは中央

から地方へ送りのむ給仕であ。
時い事は（曾ての租庸調に比すべきものであ）
は云食役の多数
を意味と労働力とを以て租税と
税との等附金等であり、送
出するものは原料と先進資産と
工業生産の加工品であ。
租税方法の例を以て中央から地方
へ送れば（総額）
から地方へ送りの一〇〇%
ル支拂分総額七〇%であ。
残りの三〇%で中央が組織される。
官吏官公吏などは地方支所の年俸
の純益に比べ地方支庁への繰出金
額は遥かに少額であ。

紙おさめ

この点敬に上一一本方が影響して行く。各般の文化団体においては本年紙代費とか負担金又は会費等を地方に負担せず中央に集まる。地方の負担により中央が紙おさめ拡張する。中央部の活動は地方に送り出すものは地方より負担すかん少でありかつ地方に送り出すものは加工されたものを中央部に送り出す。

高等的

高等とは中央部と高等とのあいだ。

同様のものが元へもどるのではないか。又地方より集まる義務のことは紙代費に関係ある。

※重要ニアリ

同様は中央都市と地方とその間にもあり

と考へないであらう。中央都市と地方との民間位は一般に都市間の勢力圏内の下部の基礎をなす圏位に比べるのではなつかの。

然るに都市は一般に下級都市との間位に於いて大きくなつかしく かへると云つて級数されへ代のつて拡大し

なのは定不是認されるとすれば、

日本の都市も段々と強くその傘下に収めて行くと思ひ一つの都市があらゆる投資に対して宣伝した停滞を見ては今の

は考へないであらう。

公共物

中央地方の意志

勢力圏

生活環境

生活程度は上級都市の程度

にはるかに及ばない。

（図は常に

高い生活程度を支持しうる上級都市

に向かって高級住宅地帯となる。

都市である。四方に果樹園が美

しく大都市には何でもある。高い教育

や娯楽のみに上級都市に固有の

ものは高い。高級な学校や

芸術的な大学は大都市に集まる。大都市

の繁栄には あくまでも知識階級の

協力が必要である。医療や教育の機

関についても同様である。

上級都市は近郊に小さな住宅地

益々充実した機関を完備する。

（四）最の八大工業都市を煙かれの

は当然です。生活程度の高い
下級都市からサービスをうける場合は
殆どない。生活水準が低下する戦争
や内乱の際は、人は逆流し、平常の場合と
は逆に都市より農村へ移住し、生活圏
心も中上級都市より下級都市へ向かうと云
ひますであろう。之れは全く異状時の現
象であるが、平和時代には常にサービスは
上流都市からうけよ。飲に学ぶべき教訓
下級都市へ対するサービスは遠く自己の
都市へはねかえってくるであろう。

次に職務に於ける上級下級官吏の関係

行政機関

官吏では上司下司の関係

銀行

今日では本社支店の関係

商業では本支店の関係

文化関係では本部支部の関係

ヤクザ仲間では親分子分の関係

何れも上位のものが上級官吏下位のものが下級官吏である。

上級官吏と下級官吏とある機関との関係

は右の如き関係を含んでいる。然るに

関係は直接に上級機関の任務は漸次

関係は直接に上級機関の任務は漸次

経験に基づく

支配

今日

保安の立場

下級機関は信頼

服従

依拠

屈服

隷属

と思惟

立場

なる

何処かあ

ルーソーの社会契約論

上級機関に於いて連絡を密にし、管理へ、管理より
統制へ、統制より支配へ、支配より更に
命令行服、保護に向って進んで行く
順位は下級機関に於いて依頼より依
拠へ、依拠より服従へ、服従より更に屈服
降参忠誠に向って行く順位は何れも
民主的関係が経済に於ける制的関係に移って
行く傾向であるが、そして今日に於いても
文化的関係の内部はかくのごとき推移が
見られないが、他の一般の事務関係に於い
てはかくのごとき事務関係はみとめがたい。一般の
事務関係に於いては下部の機関が連合協
力して上部の機関を必要をみとめるとき

樹立するとまるのではなく、先づ上部の
機関が第一に確立され、次に上部機関が
第二に心臓に近い下部機関を
設けて行くのが一般の形である。故に
下部機関に他の同列の下部機関と
連絡して上部機関を樹立しなければな
らぬはじめから上部機関によって攻
立されるのであるから、上部下
部の連絡は緊密であるが、下部相
互の関係は緊密ではない。故にそれぞれ
の機関に対する関係は下より上へ向か
長立的関係ではなく上より下へ向か
る制約的関係である。故に初めより

保護であり紀明であり命令であり支配である。統制や管理や連絡は保安や紀明や命令の使室の名である。

大多数の学生は本部支部の関係が右の様であれば、それぞれの学生の本部を位置する上級都市と支部を位置する下級都市との関係と同様の関係にあるのは当然である。然るに大中小都市のヒーラルキーは常に横の関係を形成した上下関係によって勝手に別に居る様なのヒーラルキーであると云へよう。そこには同級都市の横の連絡

は上級の都市を通じてのみ可能である
状態である。
同程度の田舎町と田舎町との社会的交流
は甚だ少く、若し交流あるとすれば
は両田舎町を共に其傘下に収め居る
上級都市を通じて行はれるものの様で
ある。交流は常に上下の間に行はれ
同程度の都市間の横的と横との間に
は余り行はれない様である。

中央都市の

中央都市に対する中央機関の[illegible]の投給機関に及ぶ[illegible]組織は[illegible]支配命令の系統を[illegible]

[illegible]

然るにはかくの如く支配命令の系統はあらゆる行政機関、経済的機関、文化団体に有[illegible]するのであるが、[illegible]中都市へ中都市から小都市へと及ぶ[illegible]であるから、さながら大中小都市のヒーラルキーの形態[illegible]

そのものが支配命令のヒーラルキーであるかの如くに見られる。又支配命令のヒーラルキーは此の成層のヒーラルキーと表裏しているものであるから大中小都市のヒーラルキーはそのまゝ此の成層のヒーラルキーも

意味して居る様である。

中都や田地等都市に大きな関係なく

故に高い社会成層が見られず高い生活

水準が見られないのは当然である。

勢力圏

既に述べたところから分かる大中小都市は何れも全体下に若干の下級系統地を収めている。かくの如く他の都市の支配下に在る

下級系統地は対等の如き中制都市の勢力圏内は一考の必要がある。

この関係は絶対的なもの（superior）

よって政治勢力圏の同じようなものとして

ふれて来た。中小都市は支配勢力圏の

の強弱及び（異位）（支配）

の強弱及び（支配）勢力圏内の位置

が。マクスコミュニケーションの中心として

ラジオや地方新聞等が（支配）

（支配）

（支配）の圏内をしっかりと解されて居る。

そこは

中心をなしている。他の諸国の中心は機関をもっている。これらの国の動向は考慮されるべき勢力である。諸国は相互に大きな中心となる都市が自ら意味をもつ。五人の立場からは諸方国は大中小の行政の起源の都市としてある。恐らく諸方国を相互に都市は有なりてあろう。歴史的都市ではすべて諸方国をもっている。

五人は諸方国を元々の機能の変遷によって次の様きすることの出来る。

1. 独立的地域と解する。これは他の元々独立的地域を

意味する。後者の考へ方は異なり、一切の社会現象に於ける社会的機能を意味する。

の重層的独立

ものである。

四人の時代を通じての都方圏は社会的接觸の密度に於ける

の密度を測定する。

接觸の密度によって

て考へる。かゝる社会的接觸人口の数と人口との

流動の方向と密度を測定する。

に於ける

関係しない。（遠隔地通信を

社会的接觸の重積による独立的地区は

大体や伝統の種類の部分に同様に

存在する。この地区は概念的に

伝統的文化の地区とは異なるものである

特に新しい地方的文化地区を

地方形成上、有地区とは、あるべきものである。

後者は、文化的価値を有する国土の区域を指す。

文化的地区とは、文化的価値を有する地区

又は他の地域と密接な関係を有する地区

文化的地区は、次のものである。

一、歴史的風土

一、地方的風情を有する国土

一、地方的特色を有する地区

一、行政的地区

一、官公庁所在地

歴史的風土地区は、

石の名所旧跡

のうち、

は、

地方的特色

少くとも

行政的地区

官公庁所在地

一、病院 [illegible] 国立 [illegible] 地区

一、学校地区

一、道路 新宅地区 国立

一、教育地区

一、繁華地区

文化的地区は過去に於ける社会的接触の基礎の上に形成されて居るものであるから、現在の社会的接触の事実に則して居ない場合も多い。

現在の繁華地区は現在の社会的接触重複地区と異って居る場合がある。

将来の文化的地区を決定するのは現在に於ける社会的接触の事実である。それは社会過程の事実と第三者の同意である。幼児の身体と衣服の国体に比するものである。

吾人が都市国を社会的接触重複圏と解し文化的地区を基礎とするのは社会過程そのものの発展を重視したいからである。

米国出身社会学者 Lawrence Frederick Ward

を同化したのはまさにRural Community
決定のあったが、都市のSphere of influence
に吸収されたのではない。
然しCommon Interest when 農民の仕事を拡
張する Center の決定の為に同化されたので
あるから、実に最も多くVillageを同化したも
のは、寧ろCenterには大きなCityも含まれて居る。
尚、Villageに一般的には
都市発生の
都市のSphere of Influenceの形成には最も多くは
地方的大都市が同化されて居る。
然し他の社会組織についてはこのようなる社会
過程の動きの中に社会的地位を決定し
やうとする人の研究に於いては大中小都

市の何処にか和歌の中に残っている。

然し他人の強圧による制約一勢力圏の同じ（吾人と異れ）は互に尊重し輕視するのは決して善いことのみならず、互に互をして重要な同化とし

居る勢力圏における支配の関係は他人の文化的地位には自ら相違はあるべき。

[1] 勢力圏としての文化は他国の中では以下治者の同等恐らく吸収圏が最も基礎的と思はれる。

互に社会的移動を種圏とする実と最も近つしのであろう。

地方新聞書籍を圏は第四ルネッサンス我が国では重要でなく扱われる。

地方ラジオ放送的管下は放送網我が国のかい地方性が充分に生きて居ない今日では

全く重要な文化的地区とは思えない。
行政的地区は重要な文化的地区となっている。特に北海道のごとくあらゆる方面の生産活動に行政官庁に依存するところ大である。
方言地区は標準語を尊重する我が国では全く問題でない。社会的流動が遠かるに拍車されるであろう。
病院や学校や都市による文化的地区は方言 Lauman interest area として第一の重要性を有するものである。
一方我が国における方言の重要性の程度を決定するにこれの資料が未だ整っ

所なり。然しこの学生活に関する余の強調は運動場と運営費は病院や教室における文化的地区とは異った性格のものである。

通婚圏は農村に於ては都市に於ては都市の通婚圏は勿論農村の通婚圏と安易に結合されて行く傾向があります。同族圏が地域的結合が強いから同じ農村に通婚圏の存するのは当然であります。

繁殖地区は軍閥支配時の我々の農村地方の生活には甚だ大きな文化的地区

の移動を妨げるが、車を無くすことは
なくなりつつある。そこには色々の理由が考へ
られる。　以上略は次の章に譲る。

勢力圏は政治的接触点機能の地位であるが、
政治的接触は最も多く交通機関によって
公示される。パトリック、ゲデスの所説は著
しく交通機関の発達と人口の流動とを
結びつけた。交通の障害となるものは自然
的地形的障害と政治的領域の境線である。
日本の大都市を結ぶ精神的連絡と
居る交通の道路が国境を越へては如何に
強固にそれ断ち切られるか。一国の首都の勢
力圏は急に狭く国民社会を拘束して行く

いあるが、口境を越しては初め位年力で
ある。